

## 雑 報

553.4 : 550.837/.838 (521.12)

### 岩手県赤金鉱山二枚山区域物理探鉱調査報告

昭和30年7月20日から約22日間にわたり、岩手県江刺郡赤金鉱山二枚山地区において物理探鉱調査を実施した。本調査は昭和30年度未利用鉄資源調査の一環として行ったもので、調査区域は前年度実施した赤金丸森区域の北側約300mの地域にある。

今回実施した二枚山区域に対して、本調査後東北大学南部助教授によつて地質精査が行われている。当区域の地質は主として緑色岩類からなり、一部石灰岩を挟んでいる。区域の北縁には斑礫岩質の選入岩体が分布しているが、地表における露出悪く、詳細な分布状況は明らかでない。当区域に賦存する鉱床は露出が悪く、地表では東方の一部以外に観察できないが、往時探鉱された旧坑口附近の併によつて判断すると、これらのものは、赤金本体と類似のものであるが、硫砒鉱をやゝ多量に混えているものもある。

今回の物理探鉱調査区域は東西300m、南北約200mにわたる地域で電気探鉱法（自然電位法・比抵抗法）お

よび磁気探鉱法を行った。

自然電位異常と磁気異常は概して区域の中央に、ほぼ同一地帯に認められ、当地区に、ほぼN30°Wの方向に分布する石英斑岩およびスカルン地帯をN60°Wの方向に連ねたような形状に両異常が現われている。この両異常の現われた地帯は、昔時各所において坑道または露天掘によつて探鉱された形跡が残っており、鉱化作用に関連するものと考えられる。

比抵抗法では各電極間隔における比抵抗分布の状況は概して類似の傾向がうかがえるが、比抵抗値の変化少なく、これより地下構造に対し、充分なる判定を行うことは困難である。

当区域の北方二枚山附近に、割合、広範囲に磁気的正異常が認められるが、岩石分布との関連も考えられるので、今後さらに調査する必要があるように考えられる。

(調査：柴藤喜平)